

## ■本書をご採用いただいた教員の皆様へ

近年の教育現場において、生徒・学生の基本的読解力は危機的な状況にあると耳にすることがあります。全国2万5000人を対象とした読解力調査から、「学力中位の高校でも、半数以上が内容理解を要する読解はできない」などの分析（新井紀子：AI vs.教科書が読めない子どもたち。東洋経済新報社；2018. p.228.）をご覧ください。なった方もいらっしゃるでしょう。

看護学生も例外ではないと思われませんが、入学試験に合格することで、「看護を学ぶための基本的な学力（読解力を含む）は身につけていると評価された」と思い込み、指導を受け入れない学生を目にすることがあります。

本書は、入学前（あるいは初年次）に、看護の専門的な勉強をするための「読む力」「書く力」を鍛え、学習のレディネス（準備状態）を整えることを目的としています。学習の第一歩を踏み出すために、看護に関連した例文から「読む」こと「書く」ことの意味やポイントを学び、練習問題に取り組む構成となっています。

本書に掲載した練習問題は、「読む」こと（Chapter2）、「書く」こと（Chapter3）、「読んで書く」こと（Chapter4）について、それぞれ2問ずつ、計6問です。入学前の自己学習の課題として、これは適当な量ではないかと思えます。

さらに学びを深めるためには、授業時間を使って自己学習の振り返りを行ったリ、あるいは次の年次の春休みの課題として自己学習を繰り返し行ったりするなどの使い方もできると考えています。

そのような多様な使い方のために、この特設サイトでは、さらに練習問題を追加して掲載していますので、ご活用いただければ幸いです。

坂井浩美・山崎啓子